
倉庫番と悪魔

乙狩白

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

倉庫番と悪魔

【Nコード】

N7272M

【作者名】

乙狩曰

【あらすじ】

私は非合法の貸し倉庫の運営で生計を立てている。

大きいものは戦車から小さいものはウィルスまで、どんなやばい物でも預かり顧客が望む期間保管するのが私の仕事だ。

私は非法の貸し倉庫の運営で生計を立てている。

大きいものは戦車から小さいものはウイルスまで、どんなやばい物でも預かり顧客が望む期間保管するのが私の仕事だ。

私の目の前のテーブルに一つの瓶が置かれている。

ジャムを入れるときなどに使う、割と大きめの金具でフタを固定できるタイプの瓶だ。

今その瓶にはジャムではなく、悪魔が入っている。

「まさか生きてる内に悪魔を拝むことができるとはね…」

神も仏も信じない私だが実際に自分の目で見たものまで否定するほど愚かではない。

浅黒い肌に真っ黒な角と蝙蝠のような翼を生やした悪魔は、瓶の底に胡坐を掻いて不機嫌そうに私を睨んでいた。

この悪魔、近所の神父さんが悪魔祓いをして封じ込めた奴らしい。

いずれバチカンに送るのでそれまで預かって欲しい、ということ置いていったのだ。

しかし、悪魔なんてどうやって預かればいい物なのか…。

フタを開けたり瓶を割ったりしなければ出てくることは無い、と神父さんは言っていたので精密機械用の倉庫か、あるいは美術品を保管する倉庫が妥当かな、などと考えていると、悪魔が瓶の内面をコンコンと叩いて私に話しかけてきた。

「なあなあアンタ、俺と取引しないかい？」

「取引？」

「ああそうさ。ここから俺を出してくれたら何でも一つだけ願いを叶えてやる。どうだい？」

「お断りするよ。悪魔と取引してもロクなことにならないというのが大昔からの定番だ」

「そりゃあ偏見ってもんさね。舐めた態度を取ったりしなけりゃアスモデウス様みたいに知恵や力を授けてくれる悪魔だっているんだ。そもそも俺たちやキリスト教に信者を奪われて泣く泣く悪者として組み込まれた、元神様って奴がほとんどなんだぜ？」

「そう邪険にするなよ」

「まあ人間も色々いるんだから悪魔も色々いてもおかしくはない。しかし、人間に取り憑くような悪魔をどうして信じられる？」

「そりゃ誤解だって！」

俺はただキャベツの葉っぱの裏側で昼寝してただけなんだぜ？

それでちよいと寝過ごしたらいつの間にかキャベツごと出荷されちまって、気が付いたら人間の胃袋の中よ。

俺みてえに、ソロモン72柱に数えられるどころか名前すら持たないような悪魔は人間に自由に取り憑いたり離れたりできねえんだ。

必死で出よう出ようともがいてたら宿主の人間まで一緒に暴れて悪霊と勘違いされちまってさ、教会連れてかれて悪魔扱いされちまったってわけよ」

「そうかそうか災難だったな」

私はグラスに氷を入れて酒を作り始めていた。

「聞けよ！」

「いや聞いているから。ロールキャベツはうまいよな」

「聞いてねえええ！！！」

勿論聞いてはいたが、悪魔の戯言に耳を貸す気は無かった。

それより私の考えていたのは、こいつをどうやって黙らせて金庫の奥に押し込むか、だった。

しばし考えを巡らし、一つ妙案が浮かんだ。

「おい悪魔」

「なんじゃい」

「そこまで言うなら一つ望みがある」

「おう！言ってみろ！」

「私は今は特に不満のない人生を送っているが、もしできることならばより充実した人生を送ってみたいと思っている。

もしそんな人生があるならば私に与えてくれないかね？」

「お安い御用だ！」

まあ幸せな人生つつつたらず金だろ！お前を億万長者にしてやる！」

「それは結構だ。今でも自分が満足できる程度の贅沢はできるくらいに収入はある」

「ぬう…じゃあ理想的な結婚相手ってのはどうだ！？」

「それも結構。異性に興味がないわけじゃないが結婚には特に興味はない」

「権力！」

「却下。人に使われるのは嫌いだがそれと同じくらいに人を使うのも嫌いだ」

「世界最高の酒と食い物！」

「却下。酒は酔えればいいし食い物は食べればいい」

「ぬ〜〜〜…」

悪魔もどうやらネタが尽きたらしい。思ったより引き出しの少ない奴だ。

「さて、もうないならあとは金庫の中でゆっくり考えていてくれ。今度顔を合わせる時にはもっとましな答えが聞かせてほしいもんだ」

「くっ…覚えてろよ！次までにはあんたの納得する人生を考え出してやるからな！！」

「期待しているよ」

そう言うとは私は完全防音の金庫に瓶詰め悪魔を放り込んだ。

さて、次この金庫を開けるときのあの悪魔はどんな答えを聞かせるのか、少し楽しみだ。

もしいい答えだったら今後の人生設計の参考にさせてもらおう。

勿論、そのときは聞いただけ聞いて「却下」と言ってやるつもりだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7272m/>

倉庫番と悪魔

2010年10月21日23時46分発行